

第1回 加茂市総合計画審議会会議録

日 時：令和2年10月9日（金）14：00～16：35

場 所：加茂文化会館小ホール

出席者：会 長	出口 高靖	職務代理	乙川 智子
委 員	木戸 信輔	委 員	堀内 大祐
委 員	石附 孝子	委 員	山田 宗
委 員	山田 喜良	委 員	中山 勇
委 員	金澤理久夫	委 員	外石 栄子
委 員	中林 功一	委 員	阿部 貴行
委 員	安達 里枝	委 員	曾根 亮子
委 員	櫻井美奈子	委 員	加藤 はと子
委 員	渡邊 明子	委 員	海津 恵美
委 員	森田 佑介		
	(欠席)		
委 員	中山 正栄		

加茂市長 藤田 明美

事務局：企画財政課

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 委員及び職員紹介
5. 会長選任
6. 諮 問
7. 会長挨拶
8. 議 事
 - (1) 会議の運営について
 - (2) スケジュールについて
 - (3) 総合計画策定方針について
 - (4) 計画策定のフレームについて
 - (5) 意見交換
9. 事務連絡
10. 閉 会

14時00分 開会

○企画財政課長 ただいまより第1回加茂市総合計画審議会を開催します。加茂市企画財政課長を務めています車谷です。会長が決定するまでの間、進行役を務めます。

初めに配布資料の確認です。資料の右肩に番号が付けてあります、資料番号1番から9番までの参考資料が置いてあります。資料一覧も置いてありますので、確認の上、不足があれば事務局まで教えてください。

本日は委員20名のうち、18名の方に審議会へ出席いただいています。定員の半数を超え、定足数を満たしていることをご報告します。

会議の公開・非公開の取り扱い、後ほど議事の中で審議する予定ですが、正式な決定を行うまでの間、公開という形で進めます。また報道機関の撮影を許可して進めていくのでご了承ください。

最初に委嘱状交付を行います。

市長より皆様へ委嘱状を交付します。代表のお1人に渡しますのでご了承ください。委員を代表して加茂商工会議所会頭の木戸信輔様に受け取りをお願いします。

[委嘱状交付]

○企画財政課長 それでは開会に当たりまして市長からご挨拶申し上げます。

[藤田市長 挨拶]

○企画財政課長 次に委員の皆様のご紹介です。委員の皆様からの自己紹介をお願いします。それでは乙川様から順にお名前と一言ずつお願いします。

[各委員 自己紹介]

○企画財政課長 続きまして事務局、企画財政課の職員の紹介をします。

最初に小柳企画調整係長、続きまして山田財政係長、企画調整係三浦主査、同じく小森主事です。よろしくをお願いします。

続きまして次第の5番、会長選任をお願いします。

資料2、加茂市総合計画審議会条例第4条に、会長は委員の互選によって定めるとあります。会長の選出に意見、推薦はありますか。挙手の上、ご発言をお願いします。

○委員 自己紹介をお聞きしますと、どなたもすばらしい方ばかりです。推薦しかねますので、事務局に腹案がございましたらお示しいただけないでしょうか。

○企画財政課長 ご提案ありがとうございます。

事務局案は行財政健全化推進計画策定の際に、有識者としてご意見頂戴いたしました新潟経営大学出口先生にお願いしたいと思っております。事務局提案についてご異議はありますか。

[[異議なし]の声あり]

それでは会長につきましては、出口委員にお願いしたいと思っております。出口委員よろしいですか。

○出口高靖委員 よろしくをお願いします。

○企画財政課長 出口委員に会長をお引き受けいただきたいと思います。出口委員、会長席に移動をお願いします。

会長選任と合わせまして、職務代理の指定をお願いします。総合計画審議会条例第4条第3項の規定により、職務代理者を会長があらかじめ指定することになっています。出口会長をお願いします。

○会長 乙川委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

○乙川智子委員 よろしくをお願いします。

○企画財政課長 職務代理は乙川委員をお願いします。

それでは次第の6番、諮問を行います。

本審議会に対しましては計画案だけでなく策定の過程を含めて諮問させていただきます。市長、会長は前の方へお願いします。

[諮問書交付]

○企画財政課長 ありがとうございます。自席にお戻りください。

ここで市長は退席させていただきます。

[市長退席]

○企画財政課長 出口会長よりご挨拶をお願いします。

○会長 ご挨拶を申し上げます。

先ほど、市長からお話がありましたように、総合計画を25年ぶりに作成することになります。少し総合計画の話をする、これは地方自治法という法律に基づいて総合計画を策定することが当初は義務付けられていました。しかし、2011年に撤廃されて、どちらかというところ、地方分権化で地方に任せるという意向になりました。

総合計画は作られなくなったかということ、逆に本当の総合計画を作ろうとして、今までの総合計画は報告のための総合計画でありました。2011年以降は、身の丈にあった本当の総合計画を作ろうと、各市町村が総合計画を作っているのが現状です。

もう1つは、環境の変化です。どこの市町村も人口が減少している。それと急激な少子高齢化を招いている。その中で、今までの市町村の歳入の伸びは見込めない。しかし、歳出が医療、福祉、子育てが増えています。

もう1つの大きな問題は公共施設の一斉更新です。加茂市だけではなく、どこの市町村でも招いている現状があります。それが今までの総合計画を作るか、なぜ作るか。

要するに歳入と歳出のバランスが既に取れなくなってきています。

もう1つは、皆さんがマスクをしているように、今年コロナ感染が出てきました。社会構造が劇的に変化して、働き方と消費が変わりました。どこにいても働ける、どこにいても商品は手に入る。皆さんは環境が変わったと感じていると思います。1つはデジタル化になってしまいました。この要素は先ほど市長の方からお話がありましたように、加茂市がどういう計画を作っていくのか。

そこで私が常に思うのは、他の市町村の総合計画を見渡して、一言でいうなら問題を先送

りしない。それと、今の子どもたちの次の世代に、どのようにこの加茂市をつなぐか。これが、私が会長職を受ける肝ではないかと思っています。

昨日何を言えばいいかと考えながら、3つあります。

1つ目は問題意識を共有化してほしい。2つ目は聖域をつくらないでほしい。地域のエゴや組織のエゴは、大学も含めて組織であればエゴがあるので、聖域をつくらないでほしい。3つ目は人や企業から選ばれる加茂市を作りたい。これが加茂市のモデルと言われれば、それを作りたいということはぜひ私も肝に銘じて、なんとかしたいということを今日皆さんにお話ししたい。これからいろいろ皆さんとお話をさせていただきたい。

市の職員の皆さん、あるいは議会の皆さん、あるいはワークショップをされている色々な若い方の意見を聞いて何をしていくかという、熟議という言葉があります。公共政策の中ではよく使うが、熟議、熟慮して議論する。これが大事だと思います。そのため皆さんにはぜひ熟議をしていただきたい。

皆さんには、私1人ではできませんので、ご協力をいただいて、25年ぶりに総合計画を答申したいと思いますのでよろしくお願いします。

会長の挨拶ということで、少し蛇足もありましたが、これから進めていく所信表明にさせていただきます。よろしくお願いします。

○**企画財政課長** ただいまより、本日の議事に入ります。審議会条例第4条第2項の規定により、会長が会務を総理することとなっていますので、会長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○**議長** 議事に入ります。まずは会議の運営について、資料ナンバー4番の方から、事務局から説明をお願いします。

[事務局が説明]

○**議長** 事務局からの説明についてご質問、ご意見があれば、お願いします。

○**議長** 特にないので会議については事務局案の通り運営することとします。

本日の議事録については堀内委員に確認をお願いしたいと思いますですがよろしいですか。

[堀内委員 了承]

○**議長** 議事録の確認を後日お願いします。

次に(2)のスケジュールについて、資料ナンバー5番。5-1の内容について事務局から説明をお願いします。

[事務局が説明]

○**議長** この件についてご質問ありますか。

○**議長** 私から市民アンケートで、10月に結果公表とあります。これは議員の方にはいつの段階で公表されますか。

○**企画財政課長** 今まとめている最中ですが、その分析もしたいと思います。結果については、第2回審議会の前になると思いますが、早い段階で示していきます。

○**議長** 皆さんの出席が6回ありますので参加して、最終的には答申という形になります。

もう1つ、審議会が直接ではないが、市の方で第1回審議会が終わると議会との意見交換、それと来年の3月定例会での中間報告と、5月にパブリックコメントで様々な人の意見を聞くことと、この審議会が中間報告をするということが入っていますので、ぜひ忌憚のないところをお願いします。

次に、(3)の総合計画策定方針について、資料ナンバー6-6と6-1と7、総合計画を審議していくにあたり、こういった考え方で計画を作っていくのかという点について共通認識を持っていただくことが重要だと思います。その点について資料を使って事務局から説明をお願いします。

[事務局が説明]

○議長 今の説明に対しご意見あるいはご質問ありますか。

○委員 資料6で市民の意見を収集する取り組みで、中学3年生にアンケートを取ったということで、なぜ中学3年生だったのか。何か理由はありましたか。

○議長 事務局の方でご回答いただけますか。

○企画調整係長 A3横の資料、カラー3枚目の人口増減・地域間流動の①②③のデータに表が載っており、③に人口の増減が書いてあります。15歳から19歳の人が20歳から24歳になるところで人口が非常に落ちていく、受験、就職をきっかけに多くの人が出ていくことを示している中で、最も近い世代の中学3年生でアンケートを実施しています。

○委員 ありがとうございます。

○議長 他にご質問はありますか。

たたき台でいろいろ述べられています人口減少。今年は国勢調査をしていますので、2年後に国立社会保障の研究所から推計が出るとは思いますが、それほどいい材料は出てこないと思います。

気をつけなければいけないのは、今の人口減少の国立社会保障というものは、出生率を中位で見ていると思います。真ん中で想定されれば、下に行くか上に行くか、高位で見るのか下位で見るのかでかなり違ってきます。

中位ということは、おおよそこの程度で流れているが、何らかの要素があると急激に落ちるわけです。そのため人口減少は、想定外のところで現実的に下がったりあるいは上がったりしているのです。これから一般的な部分でいくと、間違いなく減少が続きます。

先ほどの15歳から19歳で1つ問題があるのは、住民票を移すか移さないかです。加茂の場合、住民票でカウントしていますか。

○企画調整係長 資料の下の出典が総務省の国勢調査となるので住民票とは違うと思います。

○議長 ありがとうございます。

○議長 他にご質問ありますか。ないので、資料の方の説明をお願いします。

(4)の計画のフレームについて、これから計画づくりを進めるに当たり人口・財政など今後どのように推移していくかを考える。加茂市の現状をどのように分析しているのかを明

確にすることが大切だと思いますので、この計画のフレームについて事務局から説明をお願いします。資料ナンバーは8番と9番です。

[事務局が説明]

○議長 説明していただいた計画のフレームについて、ご質問あるいはご意見があればお願いします。

○委員 人口減少ということで人口推移が出ていますが、当初加茂市には4万人以上、人口が約5万人いたと思います。市として存続できる人口の割合はどの程度でしょうか。

昔、人口が少なくなれば町に変わると聞いたことがあります。いかがでしょうか。

○議長 事務局お願いします。

○企画財政課長 法定の市は5万人以上です。つまり既に市の規模ではありません。ただ、一旦市になりますと、そのまま継続していくということです。これ以上減った時にどうなるかということは詳しくお答えできませんが、基本的には5万人以上が市の規模です。

○委員 このままますます人口が減っていきますので、現実的にこの審議会で人口減を防ごうというような意見が出るかと思いますが、実際こういう形で推移した場合、市として財政的にも歳出歳入の件で、成り立たないような状況が生まれてくるというような想定資料かと思いますがどうでしょうか。そこが心配で、審議会で一生懸命頑張ったとしても実際どうなのでしょう。

○企画財政課長 四半世紀前は薔薇色の人口増加の計画でしたが、今は全国的に地方が人口減少するという現実は、これは既に否めないところがあります。

ただし、その減少傾向をどれだけ抑えられるかというような取り組み、移住定住や少子化対策が1つの取り組みになるかと思っています。

また、財政の状況もお示しさせていただきましたが、非常に今、将来の見通しは難しいところがあります。それは、まず人口減少の問題もありますが、コロナ禍の状況に市税の減少がどれほどになるかの想定が難しいです。一旦落ち込むと思いますが、コロナ状況が安定すればまた回復してくるかと思っています。その中で税収がそれに対して、減については地方交付税は措置される、国のお金で措置されるということで、人口減少の影響も地方交付税はあります。

先行きの見通しを今段階で示したということで、これについてはもう少し精査し、委員の皆様にもまたお示しできると考えています。

会長の方からもお話がありましたが、公共施設の更新が非常に問題になっています。その中で統廃合、再配置計画を今現在作っています。ここも1つのポイントで、加茂市がどの程度の規模になり、それに見合った状態の市民サービスを、どのような形で提供していくか、加茂市の未来はどのような形になるかということを描いていくため、施設は更新もあれば統廃合もあるということです。

ただし、これは地域の皆さんの様々な問題もありますので、すぐには反映できない部分もあります。計画の中で皆さんにお示しできるものを、また加茂市の方向性が出たものは計画

の中に反映できると思いますし、また時間のかかる部分については計画の中に、抽象的な表現になるかもしれません。

そういった規模の中でどのようにして加茂市が現実的に生き生きと、市民の皆さんが暮らしていけるまちをつくるか、計画の中で皆さんに話し合いしていただきたいと思います。

○議長 この収支見通しの人口の減少を考えると、財政状況はかなり厳しいです。

次のステップで、歳入を抑える、歳入が上がるということではできないと思うので、歳出、あるいは新たなものを作るとしても、市で稼ぐのは難しいと思います。

それで、人口が減少することがすべての影響を及ぼしているのは間違いない。

もう1つは叩き台の方に特性や課題があり、防災あるいは減災というものを考えざるを得ないということと、全体的に俯瞰して考えるしかないと思います。

SDGsは何かというと温暖化です。それは国がやればよいというものではなく、国民一人一人が温暖化の気温をあげないということが1つです。小さいが、していかなければいけないと思います。

今日は資料を読み切れていないと思いますので、持ち帰って資料を読んでいただきたいと思います。そこに何があるかということ、課題が見えています。既に課題が見えていると思うので、それをどうしていくかということこれからこの審議会でお諮りをして、話をさせていただきたいと思います。

今は資料を全て読むことで、委員の皆さんは暗くなっていくと思います。暗くなると審議会として提案ができないので、ぜひ明るい未来を、次の世代、皆さんの子どもたちがどのようにして育っていくのか、どのようにして産業あるいは産業構造を変えていくのかということを考えなければ進みません。

皆さんの世代ではなく、次の世代です。次の世代がどのようにして生きていくのか、市町村については5万人を切ったので市は名乗れない、ということはありません。一旦、市になれば降格はありません。政令都市も70万人切ったからといって降格はありません。人口減少が起きると日本全体でやらなければいけないようになっていくので、市町村の人口については急速に落ちていくのは仕方ありません。

一般的に、町でいうと6,000人を切ると危ないと言われていています。その程度の指標しかありません。それは研究者もいますので、指標として出した方がいます。ただこれも実証できていません。

今日は皆さんにご意見いただいて、これを皆さんと読み解きながら、一緒に計画を策定していきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

○議長 それでは、議事の4番まで終了しました。5番目は意見交換です。

一人一人、提案でもいいですし、何か一言ずつお願いしたい。

○委員 課題が山積で、資料を見ても暗澹たる気持ちになるような感じです。

しかし、明るい未来を描いてということで、このコロナ禍で世の中、世界中が変わっている最中で、ここに書いてある東京首都圏一極集中というものも少しずつ変わっていくので

はないかと。地方にとってチャンスではないかと私は思っています。人口減少、私たちのような世代が、ここで子育てしたいと思うようなまちに、どれだけしていけるかということが大事だと考えております。具体的な提案はありませんが、コロナ禍をチャンスに変えて、どれだけ人を呼び込めるかです。

私は岐阜県出身で、嫁いで、加茂の方は非常に控えめで、このようないいところがあるということを対外的にアピールするのが、非常に控えめな市だと。そういった方が多いと思っています。これからはネットなどを利用して、どれだけ魅力的な加茂市を発信していけるかということが非常に大事と思っています。そういったところを皆さんと話し合っていければと思います。

○委員 多くの資料を見て、提示していただきまして、まだまだ知らない加茂市、加茂の住民ですが、知らない加茂市がたくさんあると思った次第です。

皆さんのお話を聞きながら、また資料のお話、資料の中にもありましたけれども、子どもたち、そして子どもたちの次の世代の子どもたちに、この加茂をどのように残していくかというお話がありました。私たちに課せられた大きな課題ではないかと思っています。

実際に子育てしている皆さん、そしてその子どもたちが子育てをするときに、いい加茂市であってほしいと思います。様々なアイデアを皆さんお持ちだと思いますので、積極的に出してあげればいいと思います。私が思うのは、教育委員を務めさせていただいています関係上、学校によく伺わせていただきます。

小学校中学校の子どもたちが加茂を学ぶという機会が社会科や生活科ではありますが、より深く学んでもいいのではないかと思います。資料等を使って教室で学ぶだけではなく、より多く加茂のまちに出て、よりコアな加茂の部分子どもたちに見せてあげてもいいのではないかと。それはプラスの部分だけではなく、さらにこうしたいという思いを生むためにも、マイナスの部分や、より頑張ってもらいたい部分も子どもたちに見せて、育って行ってほしい。そういったものを目標にして子どもたちに見せることで、子どもたちの中からまた新たな意見が出てくればいいと思いました。

○委員 大変厳しい現実ですが、現実の数字、エビデンスを拝見して本当に暗澹たる気持ちです。よりプラスになるようなエビデンスはないのかというものを、次回に提示していただければと考えております。たとえば、鯉のぼりが何匹増えたなど。また県外に、今加茂出身の人たちが何人出ていて、金持ちになっている人がいるわけです。そういった人たちにふるさと納税払ってもらおうなど。そのような現実的に非常に厳しいだけでなく、よりワクワクするような楽しいエビデンスを、この次には期待を申し上げる次第でございます。

商工会議所として、今年から新規事業対策委員会を立ち上げまして、今まである加茂市の産業、桐たんすであれ建具であれ、本来持っている、要するに強い、強みのある産業というものがあったわけで、今もあるわけです。

そのあたりが、今非常に厳しい状況ではございます。そのあたりをもう少し、少しの工夫でまた反転攻勢できるチャンスがあるのではないかと。少しの工夫で、また少しの販路拡大

を今会議所としても鋭意取り組んでいる最中のございまして、なんとか稼ぐ手立てを創出しようとしておりますので、どうぞ皆さんも期待していただければと思います。

○委員 私も小学生の頃、加茂市の人口は、3万6千人と勉強しまして、そこから1万人減ったという現実を見せられて驚いているとともに、1万人減っても特に困ったこともありません。そのために危機感はあまりなかったのが、正直なところでは、あまり人口減少や少子高齢化という問題に誰も気にせず、なんとかかなると思っていたのではないかとこのことを改めて感じております。

それと先ほどのデータでありました、15歳からそのあとの世代が、どうしても減少していく、加茂を出て行くとありましたが、私も実際加茂を出て、外から俯瞰という形で加茂を眺めたときに、ふるさとはいいところだと気づききっかけにもなり、逆に一旦外から眺めるのも、ある意味大事なことなのではないか。逆に一旦出たけれども、また戻って来られるという魅力をどのように発信していけるか。そういったことができればいい。その受け入れ体制をどのように作ってあげられるかということが、これからの子どもたちに対する我々の責任と思いました。

それと加茂商工会議所青年部では、7月にクラウドファンディングを使った、かもメシ応援プロジェクトをさせていただき、当初予定が200万円のところ、1,000万円を超える支援をいただきまして、それだけ加茂のことを心配してくれて、また会頭の方からも話がありましたが、県外からの申し込みも多くありまして、おそらく商品券を使わずにそのまま応援してくれているのではという応援もありました。

やはりそういうところでも堂々とPR、外に対してPRして行って、加茂のいいところを発信していくのも大事だと思っております。これからの提案に期待しております。よろしくお願いいたします。

○委員 資料をたくさん見せていただいて、どこからいい材料を引っ張り出そうか分からなくなるほどの、少し切ない思いになってまいりましたが、これからいろいろ教えていただいて、勉強させていただきながら、若者たちがどれだけ夢をもって、加茂で生きていきたいと思うようなことを考えて、楽しいことを考えて、一緒に学ばせていただこうと思っております。

○委員 私たち3、40代程度で、あと30年ほどは頑張ると思っております。簡単に言うと、たとえば隣の自治体の三条市、燕市と比較すると、非常に楽しそうなことをしているというのが正直なところでもあります。そういったことも加茂でできればと考えているので、そういったところも踏まえて、今後総合計画に活かしていきたいと思っております。

また、資料がたくさんありますが、結構勉強しなければ意見できない部分があるので、もし可能であれば、注釈や米印で専門用語には一言入れていただけると、より皆さんの理解が深まっていい議論ができると思っておりますし、今日はただの質問と意見だけですが、議題などをもう少し明確にしてもらえればより発言しやすくなると思うので、たとえばいただいた資料でこういう意見くださいなど、そういったことを事務局さんの方からいただければ意見が出やすくなると思っております。

私からは以上です。ありがとうございました。

○委員 私は稲作農家で米作りをしております。私は農業が専門で、加茂は非常に米がとれる、果物が取れる野菜もとれる。また山菜も取れる。これほどいい立地条件の市町村もなかなかありません。そういったものを生かしきれていない、また農業というものは担い手不足が非常にひしひしとなっておりまして、農地の耕作をする方がますます減っているような現状が見えております。

人口減少とともにまたそういった方をIターン、Uターンで受け入れて、また中学生、高校生に農業に振り向いていただいたりして、新潟県は農業県でありますので、担い手ができるような方策ができないかと思って模索していることですので、皆様方と一緒に知恵を出し合って、そういった面も、今後とも発展できるような形にできればいいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いします。

○委員 私は毎朝、石川小学校のセーフティサークル、子どもたちが登校するときに安全を守るということをしています。本当に子どもたちが少なくなっています。加茂で安心して産める、そして育てるまち、そうしたまちを作ってもらいたい。

私が子どもの時、隣のうちも子どもがいました。私と同じような子どもがいましたが、子どもがいると珍しい、そうしたことがないようにしていきたい。

もう1つは、今こうした子どもがいないということは、ますます高齢化が進んできている。高齢化はやむを得ません。また、核家族から空き家が増えてきています。どこの区長も空き家対策ということを考えなくてはならないと言っております。

それと、自主防災組織。今、自然の大災害が起きております。そうした時に、住民を安全に避難誘導できるのか、これも大切なまちづくりの1つではないかと思っております。そうしたようなことも勉強していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員 私は古き良き時代、豊かな昭和の時代に過ごしてきましたので、今日のように人口減、財政難、施設備の更新ができないというような資料を見せられますと暗然とするわけです。

しかし、数年前までドイツの子どもたちが夏休みに私の家に泊まり、子どもたちと加茂のまちを連れて歩きました。公民館に行くと、どの教室もいろいろな講座が開かれていて、お年寄りが歌を歌って、子どもたちは剣道や体操をしています。それから通りを歩き店に顔を出すと、どの店の人もお茶を飲んでいけ、と声をかけてくれます。そういう姿を見てドイツの子どもたちは非常にびっくりしていました。日本の生活は本当に豊かだと言っていました。

人口減は1つの問題であり、財政難も問題、設備の更新も問題です。

しかし10年後、2万人のまちづくりという観点から見れば、私は人と人とのつながり、まちづくり、人の営みということを大事にした計画を作っていけば、本当に明るい加茂市が描ける気がします。

今日はそのようなことを感じました。ありがとうございました。

○委員 私が常に思うことは、環境が良くなれないといけないことです。環境、気象現象も、私たちが生活してきた昔の生活と違って、色々と便利になった分、私たちが今、台風や災害で何かを受けているのではないかと思います。自分の周りの環境を一つ一つ皆で考えながら、地域の人たちと一緒にあって取り組んでいくことです。今、世界的にも気象問題が一番で、女性たちも一生懸命勉強しています。

どこで女の人たちが頑張って、たとえばゴミの問題、それから教育の問題でも、これからコロナが終わると、それこそ勉強も、今現在会議も、全てウェブで行っています。

また電気が多く使われる、使われてどうすればいいのか、今石炭などで電気を使っているため大変です。原子力だと電気、天気も気象も変わったのではないかという学者もいますし、様々なものが出てきていますので、地域で自分たちの生活を考えながら、子どもたちにどのようなようにして、いい環境で渡せるかということが大事だと私は思っております。

皆で考えながら加茂市のいいところ、山あり田んぼあり川あり、様々なものがあります。そういったものを子どもたちに、やはり残していきたいので。きれいな環境が一番、人間生きていくためにはそういったものが重要だと思いますので、皆で考えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○委員 いわゆる人口減、少子高齢化というものは、近代に入って人類が経験したことの無い時代がこれから既に始まっています。それは一部の市町村だけではなく先進国一般に、物のないことから、物が余って高度成長が終わって成熟環境と呼ばれて久しいですが、本当に成熟成長か、成熟衰退かの二つに一つの岐路にさしかかって、すでに路線も決まっているようで、成熟成長は何かというよく考えますが、質的な成長で量ではありません。

人とのつながりや思いやりなど、今まで日本が培ってきた中にあるような気が非常にしています。そこに非常に勝機があると思っております。

それとコンセプトが、どこに向かって議論するかが最も重要だと思って聞いていました。

総合的に言えば、人口減少に対応できるまちづくりが、落としどころとしてはいいのではと思います、聞いていましたが、10年後、人口減少に対応できているまちに何か、そういう側面から教育・子育ての環境で、どのようにあれば対応していることになるのか、あるいは地域経済や商店街のお金の、経済の流動性のところから見た場合に少子高齢化、人口減少に対応できている加茂はどのような状態なのか、あるいは医療・介護、そういった環境の中で人口減少に対応できている状態とはどのような状態なのか。あるいは地域インフラ、そういったことを明確にできればいいと思います。

当然その中では、環境が人類経験したことがない時代に入っているのです、捨てるのが強く求められると思います。辞めなくてはならないことは結構あると思います。その段階での判断基準をある程度持てればいいのではと思います。

それがなければ好き勝手、自分の今やりたいことを中心に言うので、收拾つかなくなるので、本当に将来どのようなまちにしたいのか、これをぜひとも市長に僕はお示ししたい。現状の資料のなかでは、人口減少に対応できるまちになっているところは、非常に強い

ミッションとして僕は感じています。そこでそれぞれの手腕や、思いを取捨選択あるいは優先順位をつけて、重点化とプライオリティを決めていくときの判断基準がここから生まれれば、それだけですごいことと聞いていました。

○委員 まず、この総合計画自体がどのようなものを作るのかということがあります。ただ漠然と、問題点だけ話してきましたが、たとえば25年前まであったわけです。もしあれば、それを当時どのようなビジョンをもって作ったなど、その後の25年でダメだったのかもしれませんが、決して真似するわけではなく、どういうものを作ってダメだったのかというのを見たいような気持ちで、参考にしたい気もします。

他の市町村の総合計画もあると思いますが、形が見えずにいます。その中に人口問題の他の問題など、様々なことを検討していくとありますが、基本的にはどのようなものを作ればいいのかピンときません。

市長は手作りのものと仰っていますが、どのようなものを作ればいいのかがよくわからないので、もし当時のものがあれば見てみたいような気がしますし、どこで失敗したのかもわかるとい、このビジョンと失敗の差が何だったかということもわかるかもしれませんので、何かありましたら参考にしたいと思います。

○委員 まず私が一番感じたのが、このままの状態でも子どもたちに受け渡したくないということが母親として、いっの一番に思ったことです。

今こうしてここに生きている私たちが、責任世代として変えなければならぬ、やらなければならないことはやらなければならない。自覚を持っていたいと思った次第です。

総合計画は、本当に大きなもので、どこから手をつけていかなければいけないか分かりません。私は話を聞いていた中で、目指さなくてはならないところの1つとしてSDGs、サステイナブルな市政だと思いました。

人口が減少していき歳入が減っていく中で、やはり持続可能な、私たちが大満足はしないかもしれませんが、ほどほどに満足しながらお互いに支え合って生きていく未来が必要と感じました。

そうすると、今まで大きく広げてきたハードの部分です。歳入が減っていくのであれば、そこからソフトサービスへの転換を図っていかなければなりません。たとえば加茂市内の例を挙げれば、コミュニティセンターのお風呂のサービスをさらに、健康寿命を延ばすための生きがいづくりの支援があります。たとえば近隣の市でいうと、見附市はスマートウェルネスと言って、ゆうゆうライフという、市が運営する生きがいづくりや健康増進、またはその子どもたちの子育て支援を、リタイアメント世代の方たちに協力してもらいながら取り組み、生きがいを持っています。

そういったところを参考にしながら、ソフトサービスへの転換のところを作っていければいいと思いました。

また、子どもたちが将来U・Iターンしたくなる加茂の魅力というものを作っていくことを考えたときに、もちろん加茂には多くの魅力があって、現在、今ある状態でも魅力があり

ますが、外に発信して、外から評価を受けるという第三者の評価がなければ、改めてその子どもたちというものが、加茂に誇りを持つというところに至らないのが、たとえば燕市が行っている事例を見て、非常に肌で感じていることです。

そういった情報発信も、その受け皿となるようなU・Iターンができるような企業で経済が元気であることが必要と思いました。

また、外貨を稼ぐ、インバウンドという話ではなく、加茂市外から改めて人に来てもらうということも考えた時に、どういう加茂の今の資源の磨き上げをして発信していくかというところも、1つ大事なポイントで、俯瞰してみるというところに気をつけながら見ていたときに、色々やらなくてはいけないことが多くあると思いながら、今思い描いてイラストを描いたりしていた次第です。

○委員 私、今日ここに参加して、最後のこの表を見ると、私も商売をしているのでよくこのような表を使いますが、9月に基本構想を議決するために条例を制定する予定になっています。2カ月に1回このような形で順番に話をされていて、この条例を制定できるのかと思いました。

どういった形で、あまりにも広い話で、資料も多く、どこをどのように、たとえば教育が得意な方は教育、子育てが得意な方、それから商売の得意な方も、ここにお得意な方が大勢いますので、たとえば部会なりグループを決めて、得意な人たちを集めて、その人たちの持っているものを引き出してもらうほうがいいのではと思いました。

あまりにも広すぎてよくわかりませんし、人口減少を止めるために、微力ながら私が何をするかといえば、やはり自分は商売をしているので、会社を良くして、そして市外からの人に加茂で働いてもらう。そしてそこで、若い人に加茂に住みたくなくてももらう。そして加茂に自分の家を建てて、そして生活を持って、そしてまた仲間を呼んできてもらう。

それが私の会社だけではなく、皆が東京に行きますが、東京から人を引っ張ってくるということが自分の夢の中の1つとしてあります。1回東京に出た人がまたふるさとを良く思っただけに帰ってくる。

このような方がいましたが、長男ではなく次男です。加茂に帰ってきたいが、どこに帰ってくればいいのかわからないということで、すでに実家はお兄さんが継いでいる。次男はどこに住めばいいのかわからない、仕事先はどうすればいいか。ということでそういったことを一つ一つ、人口を本当に増やすことが目的ならそこにフォーカスして、行っていくことを考えなければいけないと思いました。私は、大企業を誘致してきて、人口が簡単に増えると思います。2万5千人の市民のうち、人が増えるとあまりにも変わったまちになってしまうので、それは良くないのでほどほどのところに、空き家バンクを加茂市はしていますので、そこを全国的にPRし、テレワークができる環境を作り、そして美人の湯があるので、違う活用をしていけばどうかというのがあります。

1人で色々と考えますが、ぜひこの1年以内に、条例を制定するので、必ず1年後に結果を出していけるような会になってほしいと思ったのが正直な気持ちです。

また、25年ぶりに審議会を作ったという市長の藤田さんが素晴らしいと思います。全国的にも、どこの市町村にもこういったものがあつたのにもかかわらず、なぜ加茂市にないのかと思いました。その説明がなかった。そこが最も聞きたかったです。経済と、そして市と、そして教育と、加茂は非常に学校が多くありますし、非常に今、風通しが良くなってコンパクトなまちなので、その風通しをさらに回していければいいと思いました。

今日2時間参加してそう思った次第です。ありがとうございました。

○委員 この2時間を通じて、気持ちがざわざわしてどきどきしています。理由は2つです。

1つはこの加茂市のデータを見て、これはなんとかしなくてはいけない、このようなアイデアもある、あれはどうか。様々な妄想が湧き出ています。皆さんのお話を聞いて、本当に多くの思いや妄想、アイデアがありました。そして本当に、皆さんたくさんの思いを持っていると思います。ピンチではありますが、チャンスだと思っています。

先ほど会長の発言で、問題の共有と、地域のエゴが絡まった聖域を作らない。この2番は非常に大事なポイントだと思っています。3番、人や企業から選ばれる市に、というのは本当に、今これをポイントにして発展しているまちが日本中にあるので、ぜひ加茂市もこうなりたい、こうあってほしい。そのためにはどうすればいいかと考え始めています。

もう1つのざわざわどきどきの理由は、総合計画の策定、私たちの役割はどこまでなのでしょう。これだけの膨大な資料を見て、アップアップしている加茂市の総合計画を作るのに、わずか12時間でできるかが、私は非常に不安でわからないところです。2カ月に1回の会議でいいのでしょうか。皆さんの妄想を吐いて、そしてそれを市が構想にするならわかります。しかし、これは計画をつくる審議会ですか。

私たちの役割は、ここでどこまで話をすればいいのかを教えてくださいたいです。

○委員 まず、人口についてです。私は結構、楽観をしています。増えると思っているわけではありませんが、日本全国、どこの自治体でもこの問題を持っていて、よそが持っていればいいのかというとそうではありませんが、加茂市だけの問題ではありませんし、本当にそれぞれの自治体が取り組んでいることです。

しかし、私は2人しか子どもを産んでいませんし、さらに2人とも東京と神戸の大学に行っていますし、個人的には申し訳なく思いながら話を聞いていました。

楽観しているもう1つの理由が、大学生の子どもたちを見ていると、今日もずっと次世代の子どもたちのために、というキーワードが何度か出てきていますが、本当に大学生を見ていると次世代なので、先日にも大学に長男が戻っていくとき車で送っている中、助手席でパソコンを開いてWi-Fiで大学の授業を2時間受けていました。

そういった時代で、私の知り合いも拠点が1つではなくて、東京の大学に行き加茂市に戻って来いといった、そういった問題ではなく、加茂市にも拠点があり、東京にも拠点があり、さらに別のところにも行きたい、3カ月ごとに居を変えるという人もいるほどなので、徐々にそういう時代になってきているため、今は明確な答えやアイデアはありませんが、私たちが想像できないような未来がすでにきています。

全国の道の駅の会議では、オンラインで行うのも全く抵抗がなくなりましたし、営業の人も Zoom の会議で初めまして、というようなことも全く抵抗がなくなったので、そういう文明の利器を使って新しい未来を創っていく、すでに始まっているという感覚が強くあるので、そういった意味では、人口が減ったため本当に貧しくなる、あるいは幸せではなくなるということではないという意味で、結構楽観をしています。

ただ加茂市の財政状況の貯金はよくないと思いました。ただ、令和6年度の3億円が果たして、なぜ3億円なのか。3億円なければ私たちは幸せではないのかを議論する必要があると思います、あまりに高い目標だと途中で幸せではなくなると思っているのです、なぜ3億円なのか聞いてみたいと思っています。

また、私から1つうれしいお話をしたいです。庭園の里保内で常時1万種類ほどの商品を取り扱ってまして、1万種類の60パーセントは、植木や花です。それを除いた直売所の中の商品はおよそ3,4,000の商品で、1年間で断トツに売れている2つの商品があります。その2位と3位の差が大きく開いています。1位は田辺のかりんとうです。そして2位が加茂産のしいたけです。私は皆さんのおかげで食べさせていただいています。

そういった私たちが見つけられないような、当たり前にあって普通にあるものが、本当にそのように評価を受けているものが加茂市に多くあると思うので、そういったものを1個ずつ拾っていく作業が始まるのではと思っています。

○委員 初めに、審議会が始まる前に、中学生アンケートや市民アンケートを汲んでこの会議と思って参加していたので、何もなしのところからのスタートが衝撃的でした。広範囲で様々なことがあるので、絞っていけばより濃い話ができるかと思ったのが正直な感想です。

私の中では直近の問題が防災だと思っていたので、公共施設の更新時期が来て、施設をどうにかしなくてはいけないという問題や、小中学校をどうしていくか、早くしなくてはいけない問題に対して非常に警戒心があります。山の中など、お年寄りが少ないところについても、本当に避難所は大事なもののなので、それを考えながら削減なども考えていければいいと思っていました。財政が苦しいのはわかりますが、みなさんにも丁寧に、真摯に考えてこの審議を、将来的なところを進めていっていただければいいと感じた次第です。

次世代については、自分の子どもを見ている限りは、非常に学校も楽しそうで、こういった楽しい気分がいけば、きっと帰ってきてくれるのではないかと楽観的に思っていますが、たとえば地域のために何かしたいと子どもたち、若い世代が思ったときに、それは少し難しいのではないかというモデルが、大事なことなのですが、そういったことがないような地域になってくれればいいと思います。

聖域を作らないことが非常に大事だと思っています。そこがおそらく経済発展のキーポイントになってくると個人的に感じています。実際のところ、私は小さい農家ですが、大学生で何かコラボしたい、地域の方で何かしたいと思ってくれている人が多くいて、しかし私には力不足でどうにかしてあげられないということがありますが、他にもしてみたい、

それで経済が回る可能性があることを汲み取っていければいいと思っています。

○委員 まず、加茂市の人口の減少率を県内で見て、かなり厳しい数字でした。

ただその一方で、仕事柄色々な事業者様にお会いする機会がありますが、多くの方が加茂市に出店したいと言っているのも事実です。それだけ魅力があるのだと私は思っておりますが、ただその一方で、色々な条例や制度が邪魔して出店できないという話も聞いております。

また、今回25年ぶりの総合計画ということで、それが見直しではなく、新しく作るというところが非常に私はプラスであると思っています。この財政の数字や人口の数字にとらわれた、身の丈にあったこぢんまりとした計画は、非常に私は危惧しています。そういったものではなく、これをプラスに捉えて、国の方でも地方創生に向けた補助金や、企業版ふるさと納税やPFI事業といった、地方を助けるための補助金なども多くあります。

ただ、新潟県の方はどうしても新しいものに対して遠慮するという、県民性ではありませんが、そういったところはあると思いますので、新しいものを取り入れながら、全国における地方創生のモデルとなるような素晴らしい計画ができれば私は思っております。

○議長 定刻の時間が過ぎておりますが、皆さんから意見をいくつかいただいています。おそらく今日事務局の方では対応できないと思いますので、これを事務局の方がまとめて、次回あるいはそれ以前に提供していただきたいと思います。

今出た問題の中で運営上に関わる問題だとすると、資料はできる限り事前に、これだけの膨大な資料は読み切れないので、できれば事前にお送りいただければと思います。公開が難しい資料については当日でも結構ですので、それ以外については事前に委員の方に配布いただきたい。

それと、議論のスタイルを今後どうするか考えなければいけない。20人が20人全員で議論するのもいいですが、今後考えなければいけないかと思います。

ただし、多少の勉強会のような要素も必要になってきているのでは、ということは少し感じています。そこを少し検討したいということと、もう1つ、人口問題については、それを論じても始まりません。日本全国、全て人口減少で忌憚のない話で、人口減少の問題を取り上げてどうするかではなく、それを前提に考えていくということの方が私はいいと思います。

それともう1つ、皆さんの知恵をいただきたい。そうしなければ、おそらくできないだろうと。25年間止まっていた時計を皆さんが回すわけですから。これがいいか悪いか、25年前、あるいはこの5年前に作った他の総合計画は、今のこの時代を反映していません。デジタル化という大きな波がきていますので。

それと、果たしてこれから続くかわかりませんが、7月、8月に首都圏の人口の流出が超過しました。初めて1千人ほど出ています。データを見れば分かりますが、そういった問題が出てきます。続くかわかりませんが、日本人の特性として、大学でもリモートをしています。コロナがなければすぐ対面をやりたがるという。これは、これから明らかに併用とな

ります。

次に、皆さんのお話があったように、地域のコミュニティをどうするか。大きなものを考えるより、小さいブロックで考えたほうがいいのではないかと思いました。

それともう1つ、加茂市に頼る部分と、頼らなくてもいい部分があるかと思います。これは民間が行う、あるいは何か半官半民で行うという部分、これだけ財政状況が厳しければ、全て頼ることはできないと思います。

政策論でいうと自助・共助・公助とあります。公助さえすればいいという言い方をすると失礼ですが、自助、自分たちが何をするか。防災のとき助けに来ません。2日間は「自分で守れ」です。東京は「3日間守れ」です。自分たちで食べていくようにと言っているわけです。自助の問題はそろそろ考えなければ。この財政を見て皆さん頼れますか。やはりこれは考えていかざるを得ないかと思います。

私は皆さんの意見を聞いてまとめましたが、そういった視点を向けていかなければ、これから6回、7回しても同じような、うまくいかないような気がして、私もどちらかというと事務方の一員として、少し今日皆さんの話を聞いて考えてみます。どこまで汲み取れるかわかりませんが、ぜひ事務局の方でまとめていただいて、事前に皆さんとお話をしたいと思います。

長時間にわたり皆さんの忌憚のない意見をいただきまして、本当にありがとうございました。次回まで結構ですので、もし意見があれば事務局に出していただければと思います。とりあえず、これで決められた議事は終了させていただきます。

○議長 では事務局にお返ししたいと思います。

[事務局より次回の日程等について連絡]

○議長 時間が30分以上過ぎましたが、皆さんの忌憚のない意見を聞いて、これから進めさせていただきます。

以上をもちまして、第1回加茂市総合計画審議会を終了させていただきます。

16時35分 閉会